（別紙）

［第１回倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（H22.9.24）会長決定事項］

倉吉市定住自立圏共生ビジョン懇談会（部会）　委員名簿

１　医療・福祉・教育部会

(順不同・敬称略)

職名	氏名	備考
委員	小谷　次雄	**（部会長）**
委員	桑本　圭二	**（副部会長）**
委員	池田　宣之	
委員	森本　勤子	
委員	村島　満	
計	５名	

２　産業振興・地産地消部会

(順不同・敬称略)

職名	氏名	備考
委員	山脇　誠	**（部会長）**
委員	谷本　八郎	**（副部会長）**
委員	岩崎　元孝	
委員	上本　武	
委員	岸本　康子	
委員	遠藤　公章	
委員	高塚　良平	
計	７名	

３　交通・移住・情報部会

(順不同・敬称略)

職名	氏名	備考
委員	福井　恒美	**（部会長）**
委員	米田　功	**（副部会長）**
委員	山下　昇	
委員	青木　雅彦	
委員	福井　利明	
計	５名	

（資料２）

SWOT分析による圏域の課題と可能性の整理

本資料は、第2回の各部会での意見（圏域において足りているものや足りていないもの）をふまえ、さらに文献等の資料から、圏域の強み・弱みを整理し、圏域の課題および今後の可能性を模索・整理したものとなっています。

用語の解説
【SWOT分析】
・・・・企業の戦略立案を行う際で使われる主要な分析手法で、組織の外的環境に潜む**機会（O＝opportunities）、脅威（T＝threats）**を検討・考慮したうえで、その団体や組織が持つ**強み（S＝strengths）と弱み（W＝weaknesses）**を確認・評価すること。経営戦略の策定のほかにマーケティング計画やバランスト・スコアカード、ISOのマネジメントシステム構築など、幅広い分野で活用される。

機会と脅威は、外部環境――すなわち団体や組織が目的を達成するうえで影響を受ける可能性のあるマクロ要因（政治・経済、社会情勢、技術進展、法的規制など）とミクロ要因（市場規模・成長性、顧客の価値観、価格の傾向、競合他社、協力会社など）を列挙し、促進要因と阻害要因に分けることで導き出す。**⇒今回は主に社会動向を列挙しています。**

強みと弱みは、自社（自組織）の有形・無形の経営資源――例えば商品力、コスト体質、販売力、技術力、評判やブランド、財務、人材、意思決定力などを検討し、それらが競合他社より優れているか、劣っているかで分類して導いていく。**⇒今回は部会での意見、文献からの統計などを列挙しています。**

SWOT分析においてどのような項目をいくつ取り上げるかは、特に統一的な基準があるわけではない。戦略構想においては、強みと弱みの区分が明確でない場合も多い。特に誰に、どのような戦略・方向性を示していくのかを想定しておくことも重要となる。
※一部、マネジメント用語集から引用

【医療・福祉・教育分野におけるSWOT分析の結果について】

SWOT分析【暫定版】

【医　療】

【内部要因】現状・課題

強み

○大学と医療の連携がある
○医療・福祉産業における就業者が多い
○二次保健医療圏としての医療基盤がある（倉吉市は人口10万人当たりの病院・診療所数、歯科診療所数が県内で上位、病床数、医師数も倉吉市、三朝町は上位）
○病院、診療所の連携体制を進めている（各病院が専門医療を持ち、お互いに役割分担している）
○在宅医療を進めている機関がある
○看護高等専門学校の定員の増
○助産師の確保等を進めている

弱み

○小児科医、産科医が不足傾向
○救急患者増、ニーズの多様化による医療機関への負担の増加
○重病者の対応ができない
○平日夜間の診療体制不足
○無医地区が３箇所ある
○高齢者の通院手段がない
○倉吉市では基本健診の診率が低く、県内で最下位
○二次保健医療圏のため、高度な専門治療は圏域外

【外部要因】社会動向・ニーズ

機会（チャンス・追い風）

○安全・安心意識の高まり
○地域密着型の医療へのニーズ
○在宅医療へのニーズ
○医療ツーリズムなどへの期待

脅威（向かい風）

○全国的な医師不足
○医療へのニーズの多様化
○医療問題
○少子化と高齢化
○病院数、有床診療所数の減少

【伸ばしていくもの】
安心できる医療基盤の充実
小回りのきく医療体制、連携体制の充実

【改善していくもの】
在宅医療の推進
医師不足の解消
救急医療体制への対応
病院の専門医療の高度化

【福　祉】

【内部要因】現状・課題

強み

○中部は福祉関連の施設やサービスの種類・数が多い。福祉体制が充実している
○福祉サービスについては、協議会や会議などを通じて各市町で連携が図られている
○子育て支援の関連施設は一定の基盤がある
○障がい福祉についてもサービス基盤が確保されている
○ボランティアが活発
○倉吉市、三朝町は男性の平均寿命が長い（県内で上位）。琴浦町、倉吉市は女性の平均寿命が長い

弱み

○介護サービス等の数や種類が多い一方、サービスの質の低下を招くことが懸念される
○市町間でサービス格差がある（例：機能訓練できる施設が少ない）
○育児などの相談場所・情報が少ない
○在宅の介護力不足の傾向
○介護の認定率の上昇（各市町でほぼ増加傾向にある）
○認知症高齢者数の増加、若年化
○民生委員の担い手不足
○公民館での福祉に関する講座が少ない

【外部要因】社会動向・ニーズ

機会（チャンス・追い風）

○安全・安心意識の高まり
○健康志向の高まり
○ボランティア活動の活発化
○介護予防の推進
○障害者自立支援法の動向
○ユニバーサルデザインの浸透
○外国人ヘルパーの導入

脅威（向かい風）

○少子化、高齢化の進展
○高齢者世帯の増加
○老老介護の問題
○福祉へのニーズの多様化
○地域関係、家族関係の希薄化
○介護保険料の高騰

【伸ばしていくもの】
福祉（医療・保健）分野の連携基盤の強化
地域密着型のサービス体制の充実
安心できる体制・情報など
地域福祉の充実（ボランティア団体等への支援）

【改善していくもの】
サービス格差の解消
相談体制の充実
介護予防の推進

【教　育】

【内部要因】現状・課題

強み

○上位ランクの学力（小学校2010学力、鳥取県６位）
○先生の数の増加（三朝町、琴浦町では教員数が県内で上位）
○学校と地域が連携
○教育分野での大学との連携がある
○特別支援教育の充実
○体育施設、生涯学習施設が充実している
○スポーツ・競技が盛ん
○湯梨浜町、琴浦町は人口１万人当たりの公民館数が県内で上位

弱み

○家庭教育の問題
○学校等の適正配置の問題（今後の検討課題となっている）
○不登校児童の出現率の増加、いじめ等の問題の多様化
○体育施設の利用面での格差がある
○施設の有効活用が課題

【外部要因】社会動向・ニーズ

機会（チャンス・追い風）

○学力の国際競争力の激化
○キャリア教育へのニーズ増加
○教育基本法や学校教育法の改正
○趣味やスポーツのニーズの高まり
○総合型地域スポーツクラブの設立
○健康志向の高まり

脅威（向かい風）

○園児数、生徒数の減少
○いじめ、不登校の問題
○ニート、引き込もりの増加
○モンスターペアレンツの出現
○塾通いの増加

【伸ばしていくもの】
充実した教育体制
学力の向上
生涯学習・スポーツ環境の充実

【改善していくもの】
家庭教育の推進
施設利用面の公正化、利活用の推進
学校の適正配置検討

【可能性要素】比較的、水準の高い医療・福祉基盤、教育環境⇒「地域の安全・安心面の構築」につながる

【産業振興・地産地消分野におけるSWOT分析の結果について】

SWOT分析【暫定版】

【産業振興】

	強み	弱み
【内部要因】現状・課題	○地域資源として、魅力的な自然環境、温泉、観光施設、豊富な農産物・水産物がある ○歴史、名所が多い（倉吉市、三朝町、湯梨浜町、琴浦町は文化財指定数が県内で上位） ○琴浦町、北栄町、倉吉市、湯梨浜町は農業産出額、耕地面積率が県内で上位 ○人口千人当たりの事業所数、従業者数、商店数は倉吉市が県内で２位 ○就業率（特に女性の就業率）が高い（県内で北栄町、湯梨浜町、三朝町、琴浦町が上位） ○農業、製造業、卸売・小売業、医療・福祉業に従事する者が多い	○宿泊型の観光振興 ○積極的な広域観光振興の不足 ○有効な資源の利活用 ○収益性のある農業の仕組みづくり ○一次加工産業の不足 ○地産地消を活かした飲食店が少ない ○地場産業の落ち込み ○職場不足、雇用の創出 ○後継者・担い手がいない ○産業面への支援の不足 ○情報発信力の不足

	機会（チャンス・追い風）	脅威（向かい風）
【外部要因】社会動向・ニーズ	○団塊世代の旅行志向の高まり ○スローライフ志向の高まり ○産業のグローバル化 ○エコ関連ビジネスの活発化 ○地方分権の進展 ○ブランド農産物の流行 ○高速網の利用促進（高速道路の無料化、観光圏の拡大） ○ニューツーリズムの浸透 ○ワーク・ライフ・バランスの浸透	○景気の長期低迷と雇用の不安定化 ○安・近・短型観光への転換 ○格差社会、ワーキングプアの増加 ○産業の国際競争の激化 ○郊外型大規模店舗の進出 ○消費者トラブルの増加 ○地元商店街の衰退

【伸ばしていくもの】
豊富な地域資源、農産物等の活用
観光資源の活用、ネットワーク化での交流促進
スローライフ志向に向けた自然環境の保全・活用
ブランド化の推進
特色ある産業（医療・福祉業など）への支援

【改善していくもの】
企業誘致等による産業の活性化
農業（第一次産業）の振興
産業の活性化による雇用の促進

【地産地消】

	強み	弱み
【内部要因】現状・課題	○地場グルメの促進 ○豊かな地域食材 ○農産物のブランド化 ○食育の推進 ○農協での取り組み（直売所）の活性化 ○圏域外との取り引き ○海や山を活かしたイベント ○修学旅行生の受け入れ ○観光分野、医療・福祉分野との連携	○中部だけで消費する構造ができていない（消費者への浸透が薄い。農産物の多様化） ○農協、漁協等の連携が少ない ○後継者問題、農家数の減少 ○学校での地産地消ができていない（給食の単価安。学校機関との連携が薄い） ○産品を宣伝できる手段・場所が少ない ○ゆったり観光が少ない

	機会（チャンス・追い風）	脅威（向かい風）
【外部要因】社会動向・ニーズ	○安全・安心への意識の高まり ○規則正しい食生活の推進 ○地産他消の傾向 ○観光との連携（独自の修学旅行企画など）	○国内自給率の低迷 ○農産物等の国際競争の激化 ○ライフスタイルの多様化 ○食生活の乱れ（ファーストフード食の増加。孤食、過食の傾向。生活習慣病の増加） ○販売網のネット化

【伸ばしていくもの】
農産物のブランド化推進
地場グルメのＰＲ・周知
豊富な資源をＰＲする機会・場所の創出
食育の推進
観光等の他分野との連携

【改善していくもの】
豊富な資源を活かした機会・場所の創出
学校給食等での地産地消の促進
一次加工の体制の検討

【可能性要素】
各市町に独自の豊富な地域資源を多く持っていること。圏域内での特殊な産業基盤・構造を持っていること（就業率が高さ（女性も）や、農業や製造業、医療・福祉産業の就業者数が多いことなど）。
⇒「まちの交流や元気・活力」につながる。

【交流・移住・情報分野におけるSWOT分析の結果について】

SWOT分析【暫定版】

【地域公共交通】

	強み	弱み
【内部要因】現状・課題	○交通網は一定そろっている ○道路整備が進められている（市町村道の道路舗装率は、湯梨浜町、北栄町が県内で上位） ○地域交通連携での協議が進められている ○ワンコインバス、乗合タクシー、NPO移送手段等の取り組みがある ○安全な街（交通事故死傷者数、道路交通法違反取締件数が県内で少ない）	○自家用車での移動が多い（北栄町は乗用車数が県内で上位） ○高齢者の通院手段が不足している ○交通体系ネットワークの連携不足 ○バス交通網の有効活用 ○公共交通機関の利用不足

	機会（チャンス・追い風）	脅威（向かい風）
【外部要因】社会動向・ニーズ	○広域交通網の拡大 ○地域公共交通体制の見直し ○ＥＴＣの普及 ○高速道路の無料化の促進 ○地域での移送などインフォーマルサービスの普及	○モータリゼーションの進展 ○公共交通の体制の衰退 ○通勤・通学の広域化 ○国家予算の縮小傾向

【伸ばしていくもの】
交通網の連携強化、充実
地域広規格道路の整備
インフォーマルな移送手段の確保・拡大

【改善していくもの】
公共交通網の利活用
高齢者の移送手段の確保

【移住・交流】

	強み	弱み
【内部要因】現状・課題	○移住に関する問い合わせの増加 ○空き家バンクの取り組み ○移住の受け入れ事例がある ○北栄町は持ち家比率が県内で５位。琴浦町、湯梨浜町、北栄町は持ち家延べ面積が上位 ○倉吉市のリーダーシップ的役割 ○大学との連携 ○農業体験イベントなどの取り組み ○土地が安い（鳥取県は全国で８番目に住宅地平均価格が安い） ○まちづくり活動が盛ん	○住民が移住を受け入れる意識が少ない ○雇用の問題（職に就ける環境が整っていない） ○交流人口（観光客）の減少 ○広報活動等の一元化 ○情報発信

	機会（チャンス・追い風）	脅威（向かい風）
【外部要因】社会動向・ニーズ	○移住へのニーズの増加 ○二地域居住等、住み方の多様化 ○スローライフ、田舎暮らし、ロハス志向の高まり ○インターネット、携帯電話など情報網の普及 ○市民協働の推進	○移住人口の取り込みの国内競争の激化 ○ライフスタイルの多様化、選択性の拡大

【伸ばしていくもの】
移住における情報網の充実
大学、ＮＰＯ等の連携
倉吉市の推進力の強化、各町での取り組み強化
協働への仕組みづくりと支援

【改善していくもの】
住民の受け入れ意識の醸成
就業環境の改善

【情　報】

	強み	弱み
【内部要因】現状・課題	○ケーブルテレビの加入率の増加 ○「中部は一つ」と言う連携意識 ○広報、インターネット、メールサービスなど、各市町での取り組み ○市ホームページへのアクセス件数の増加	○情報網の面で垣根がある（情報の統一ができていない） ○情報網の整備に費用面、人員面等でリスクがある ○ホームページ等の情報量に差がある ○山間地では（情報通信基盤は整っているが）、より生活に密接した情報が重要となっている

	機会（チャンス・追い風）	脅威（向かい風）
【外部要因】社会動向・ニーズ	○地上デジタル放送への転換 ○情報のグローバル化、ネットワーク化 ○高度情報化社会の到来 ○「情報縁」づくりの必要性 ○電子自治体の推進	○情報格差の拡大 ○プライバシー保護の問題 ○セキュリティの確保

【伸ばしていくもの】
ケーブルテレビの加入率の促進
情報網の利活用

【改善していくもの】
情報の共有化
情報格差の是正

【可能性要素】“中部はひとつ”という連携意識・盛んなまちづくり活動、立地環境⇒「人・絆づくり」「利便性ある都市環境」につながる

（資料３）

鳥取県中部定住自立圏共生ビジョン
【圏域の課題と可能性】
【将来像の方向性】

平成 22 年 11 月

鳥取県　倉吉市

目　次

第2章　圏域の課題と可能性 1
Ⅰ. 圏域の課題 1
１．暮らしを支える生活分野に関連する課題 1
２．活力・元気を生み出す産業分野に関する課題 1
３．賑わいを生み出す結びつきやネットワーク分野に関連する課題 2
４．地域づくりを担う人材育成に関連する課題 2
Ⅱ. 圏域の可能性 3
１．美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域 3
２．安全・安心を感じられる質の高い生活支援・サポート基盤がある圏域 3
３．人とモノの交流を生み出すツーリズム要素の多い圏域 3
４．圏域を支える産業基盤と特色ある産業構造をもった圏域 3
５．県の中央部に立地する利便性を活かせる圏域 4
６．「中部は一つ」という連携意識の高い圏域 4
第3章　圏域の将来像 5
Ⅰ. 将来像の方向性 5

第2章　圏域の課題と可能性

Ⅰ．圏域の課題

・圏域の総人口は昭和 60 年以降、減少に転じており、現状のまま推移すれば、少子高齢化の進行とともに、地域活力の一層の低下が懸念される。
・全国的な人口減少社会の到来に対して、活力と魅力にあふれた地域社会を維持・創出していくためには、子どもや女性、高齢者等を含めた、より多くの人々が活躍できる、活動の場・機会の創出に努めることが必要となっている。
・今後の流出人口を抑制するため、まずは住みよさ・暮らし良さを向上させる取り組みを充実し、圏域外をはじめ、国内外からも人を呼び込むため、圏域全体の付加価値を高めて、交流を活性化させ、消費や人を呼びこむことが求められる。

１．暮らしを支える生活分野に関連する課題

医療、福祉、教育
【生活機能の強化の課題】

・二次保健医療圏として、倉吉市や三朝町に中心的医療機関も配置されているが、小児科医や産婦人科医の不足、救急医療・専門医療が必要な患者への対応、無医地区の集落への対応などの課題があり、誰もが安心して暮らせる医療サービスの提供体制の確保が求められている。
・今後ますます進む少子高齢化の波に対応するため、福祉サービスの質の向上や格差の解消、地域に根差した福祉の充実が課題となっている。
・一定の教育機関が整っている一方で、家庭教育の問題、不登校の児童の増加、児童数・生徒数の減少などの課題がある。また、体育施設・生涯学習施設についても、住民の生活へのニーズがより複雑化する中、多様な学習・スポーツの機会の提供が求められており、より利用しやすい環境の整備、施設の有効活用に関する方策等の検討を進めていく必要がある。

２．活力・元気を生み出す産業分野に関する課題

産業、観光
【生活機能の強化の課題】

・景気の長期的な低迷を背景に、地場産業の衰退、雇用情勢の不安定化が進んでおり、若者の就業の場の確保の点でも産業の活性化は喫緊の課題となっている。
・基幹産業である、第１次産業（特に農業）については、輸入自由化による国際競争や産地間競争の激化などによる厳しい状況下で、安定的に所得・収益を確保することが難しくなっており、農家戸数の減少、就業者の高齢化、後継者不足といった課題に直面している。また、そうした状況を背景に、耕作放棄地が増加し、経営耕地面積も年々減少しており、今後ますます生産性の低下を招くことが懸念される。
・豊富な農産物・水産物を活かすための、ブランド化、高付加価値化による収益性を促す仕組みづくりが求められている。
・観光面では、各市町がそれぞれ豊富な地域資源を活用し観光振興を進めているが、個別の取り組みとなっており、積極的な広域観光の振興が必要となっている。

地産地消、公共交通、移住・交流、情報
【結びつきやネットワークの強化の課題】

３．賑わいを生み出す結びつきやネットワーク分野に関連する課題

・豊かな地場の農産物、水産物について、圏域内での自給率は低く、圏域内では消費できないといった地産地消そのものへの課題が現れている。
・JR、広域バス、路線バス、地域コミュニティでの移動手段など、様々に交通網が整備されているが、連結・連携の体制が不十分となっている面がある。
・公共交通の基幹である路線バスは、利用者の不足、非効率な路線体系などの問題で安定的な経営が困難になっており、サービス水準が維持できなくなっている。また、高齢者の通院・買い物などの交通手段の不足が課題となっている。
・移住に関する取り組みやニーズは増えているものの、受け入れをする住民意識の不足や雇用の問題で、定住を促進化できない状況となっている。
・圏域内のケーブルテレビの情報は２分化されており、圏域内で受け取る情報が統一できておらず、情報の共有化が望まれている。

４．地域づくりを担う人材育成に関連する課題

人材育成など
【圏域マネジメントの強化の課題】

・住民のライフスタイルが多様化し、住民ニーズがより複雑化・広範化する中で、行政職員は、その数が限られており、多くの事務や業務を兼務でこなしていかねばならず、専門知識や技術の習得が課題となっている。
・ボランティア団体や NPO 団体などの活動は活発である反面、分野によっては各種の取り組みと一体的に動けていないなどの課題があるため、有効的に連携していくことが求められる。
・全国的な財政難や財源の縮小傾向の中、公的支援だけでは住民生活の質を維持していくことが困難となっており、共生・協働の視点から、行政と住民、企業、NPO 等の地域関係者が明確な役割分担のもとで、まちづくりを進めていくことが求められている。そのため、地域のまちづくり活動を支援し、行政サービスを補完する新たな公共の担い手を育成する仕組みづくりが今後ますます重要となってくる。

Ⅱ．圏域の可能性

中心市である倉吉市と、圏域を構成する周辺自治体である４町が有機的に連携し、以下の可能性を最大に高めることで、定住自立圏として発展していくことが期待されます。

１．美しい自然環境が整った魅力的かつ豊富な地域資源が存在する圏域

三徳山や船上山、不動滝、東郷湖、北条砂丘など、圏域を構成する各市町それぞれに、代表的な自然環境を持っており、この美しく恵まれた水と緑の環境は圏域の大きな魅力となっています。

そうした肥沃な大地、豊かな風土からは、メロン、梨、スイカなどの農産物、和牛、乳牛などの畜産物など、県内でも有数の特産物が数多く生み出されています。

その他にも、文化財指定件数は県内で上位であり、由緒ある多くの歴史文化物・名所が存在しています。このような豊富な地域資源を有効に活用することで、圏域の魅力を向上させる可能性が高まります。

２．安全・安心を感じられる質の高い生活支援・サポート基盤がある圏域

県内でも医師数、医療機関の数や福祉サービスの種類・数が多く、医療基盤、福祉サービス体制といった分野で、その水準は高いものとなっています。また、教育の面でも、学習環境や施設環境が整っており、今後、それらの基盤整備をさらに充実していくことで、誰もが安心して、安全に暮らしていける質の高い圏域づくりが可能となります。

３．人とモノの交流を生み出すツーリズム要素の多い圏域

多種多様な歴史、伝統文化を併せ持つ倉吉市、県内でも有数の温泉資源がある三朝町、ロハスを推進しスローライフを感じることのできる湯梨浜町、乳牛やラーメンでの独自の地場グルメを生み出している琴浦町、環境への取り組みや、漫画によるオリジナルなまちづくりを推進する北栄町。中部圏域は各市町が持つ独自の観光施設、および豊富な観光資源が点在しています。また、各市町それぞれに豊かな自然や農畜産物などの資源が豊富にあり、訪れたくなる要素（ツーリズムにつながる要素）が多分に備わっている圏域であると言えます。

こうした資源を広域的に結びつけ、他分野とも連携を図ることで、圏域内・外との交流がますます活発になり、圏域外から足を運ぶ機会が大きく広がります。

４．圏域を支える産業基盤と特色ある産業構造をもった圏域

地場産業の低迷傾向はあるものの、圏域を構成する各町の就業率は全国平均を上回っており、県内でも比較的高く、特に女性の就業率が非常に高いものとなっています。また、倉吉市は人口千人当たりの事業所数、従業者数、商店数が県内トップクラスとなっています。その産業構造（就業者数の内訳）としては、農業、製造業、卸売・小売業、医療・福祉業の分野に従事する者が多くなっており、前述したように特に医療・福祉基盤の整った本圏域では、医療・福祉産業が

まちの一大産業ともなっています。主幹産業である農業の振興、また、こうした既存産業の振興、そして新規産業の誘致・育成等によって、一体的な産業の活性化がなされ、就業環境づくりが進むものと期待されます。

５．県の中央部に立地する利便性を活かせる圏域

県の中央部に位置する本圏域は、岡山県、鳥取市を中心とする圏域、米子市・松江市を中心とする圏域と隣接しており、本圏域は、山陰地方の東西あるいは南北の交流･連携の要として、重要な位置づけとなっています。また、鉄道網、空港、高速バスのいずれの交通機関でも、関西圏まで約２～３時間で発着可能なアクセス環境です。今後、地域高規格道路網の整備がより進むことにより、山陰自動車道や米子自動車道へのアクセス時間がより一層短縮されます。こうした立地を活かし、さらなる利便性の向上を図ることが可能となります。

６．「中部は一つ」という連携意識の高い圏域

本圏域は、圏域を構成する各市町間の移動が 30 分以内にできる距離・範囲となっています。そのため、昔から「中部は一つ」という強い連携意識のもと、さまざまな取り組み、および単独市町で解決できない課題等を広域的に協力し合い、解決してきた背景があります。

また、「ボランティア活動」の行動者率が全国第 1 位（平成 18 年社会生活基本調査）となった鳥取県の中でも、ボランティア団体活動やNPO団体活動が盛んな圏域でもあります。

本圏域の特色でもある、絆を大切にするあたたかい気風を持った土地柄・気質こそ、人と人とを結びつけ、定住を促進するのに欠かせない要素です。

第3章　圏域の将来像

Ⅰ．将来像の方向性

○競争しても無理なもの、無い物を探す方向ではなく、現在あるものを最大限活かし魅力を高める。
　⇒「資源と機能」「再認識と有効活用」

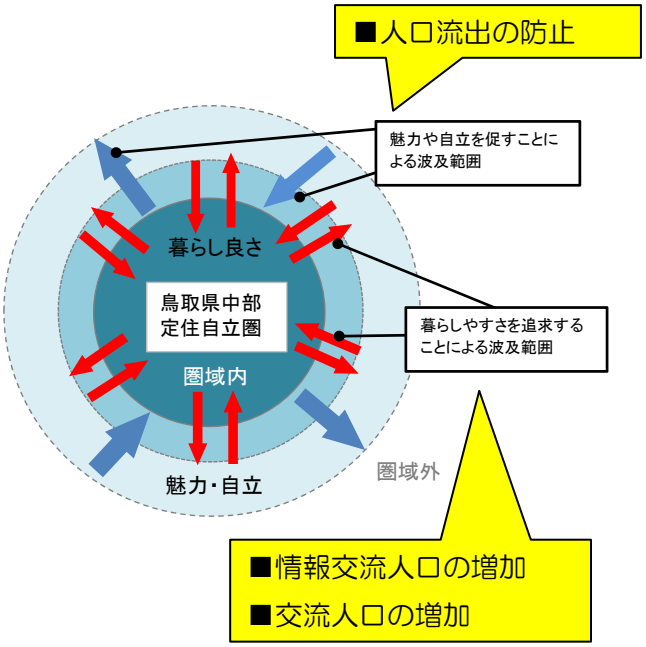
★目指すべき方向
■強い連携意識のもと、倉吉市の機能と周辺４町の機能が有機的に連携し、質の高い暮らしやすさが感じられる「定住（暮らしやすさ）」につなげて行くことが必要
■観光資源や交流拠点など、ポテンシャルの高い地域の資源を相互に連携・活用することで、圏域単位での「魅力」を創出することが必要

山陰地域の要所として、なくてはならない圏域（定住自立圏域）の形成のために・・・

■『守りの機能』
・・・日常生活圏内での住んでいる人々の暮らしや生命を守る取り組み。（医療、介護、子育て支援、障がい福祉、教育、交通網の整備、地域のコミュニティ活動・住民参加の取り組みな

＋

■『攻めの機能』
・・・・全圏域的な魅力創出活動や経済的活動を促す取り組み。（観光、歴史・伝統文化の保全・活用、地域資源等の情報・広報活動、雇用創出、企業誘致、地場産業の活性化など）



⇒小規模中心市型における豊かさの実現

★中部定住自立圏の取り組みの狙い

住民にどのように考えてもらうか（取り組みの狙い）		中部圏域の定住に向けた取り組み
外部の住民	内部の住民	各施策分野
中部圏域をちょっと知っている程度	中部圏域に住んでいて良かったと感じてもらう	医療（生活機能の強化）／福祉（生活機能の強化）／※住民参加（結びつきやネットワークの強化）
中部圏域に行こうと思ってもらい、訪問するきっかけをつくる	中部圏域の中で楽しもうと思い、友達も呼ぼうと思ってもらう	情報（結びつきやネットワークの強化）／交流（結びつきやネットワークの強化）／観光（生活機能の強化）
中部圏域の生活もなるほど良いなと思ってもらう	中部圏域の生活もなかなか良いよ、と対外的に言えるようになる	公共交通（結びつきやネットワークの強化）／地産地消（結びつきやネットワークの強化）
中部圏域に住んでも（＝家を買っても）良いなと思ってもらう	他の地域よりも中部圏域で暮らそうと感じる	※環境（生活機能の強化）／教育（生活機能の強化）／移住（結びつきやネットワークの強化）
中部圏域の雇用を確保する	中部圏域の中で働きたいと思ってもらう	産業振興（生活機能の強化）← インフラ整備による都市機能の強化
中部圏域に定住する人が増える	中部圏域に残る人が増える	※印は今回の共生ビジョンに予定していない項目

人材育成（圏域マネジメント能力の強化）

○今住んでいる人々の生活向上、暮らし良さの向上により、**人口の流出を防ぐ**。

○その圏域の<u>生活価値</u>を圏域外に広め、移住促進を図り、**人口流入を図る**。

⇩

<u>※本当の豊かさとは何か</u>

＝健やかにいきいきと暮らせること、ゆとりをもって快適に暮らせること、安全・安心に暮らせること

＝豊かさを感じられる価値観

★将来像の柱

■美しい自然環境、多彩な地域資源を活かしたまちづくり

・・・自然環境、風景、土地、水・緑・空気、歴史・名所、温泉、農畜産物などを活かす

■安心・安全が確保された住み良いまちづくり

・・・医療・福祉・教育の充実、安い土地、生活の質などの好条件のさらなる充実

■活力・元気を創出する魅力あるまちづくり

・・・観光の広域的振興、産業の活性化、農業の振興などによって、活力・元気を生み出す

■人やモノ、情報の流れを促し、結びつきが強まるまちづくり

・・・多様なツーリズム要素、移住促進、アクセスの充実、情報強化などでネットワークを強める

■地域づくりを担う人を育成するまちづくり

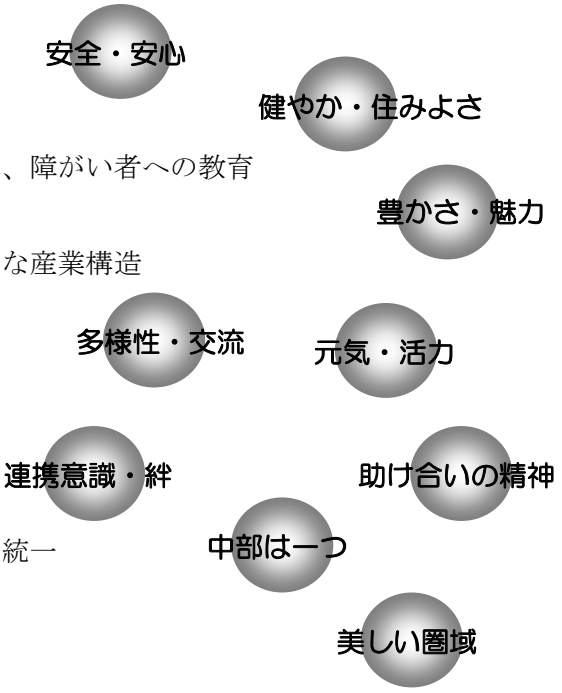
・・・NPO・ボランティア、地域、助け合い、連携意識などにより、みんなで地域づくりを進める

■分野ごとの特性から浮かび上がるキーワード

□医療　　例）身近な医療体制、連携
□福祉　　例）充実したサービス
□教育　　例）上位の学力、先生の数、大学との連携、障がい者への教育

□産業振興　例）生産高、就業率などの高さ、特徴的な産業構造
□観光　　例）豊富な観光資源、広域連携
□情報　　例）統一化、定住促進、窓口一元化

□公共交通　例）地域高規格道路、地域交通網
□移住・交流　例）空き家バンク、体験型交流
□情報　　例）ケーブルテレビの加入率、情報網の統一
□その他　　例）豊かな自然環境、地域活動が盛ん



（将来像のキャッチフレーズ）
○○○○○○　○○○○○○　○○○○○

■参考　「他圏域の将来像を現すキャッチコピー」

圏域	将来像（キャッチコピー）
鳥取）中海圏域	出会いは　なかうみ　動き出す　未来
鳥取）鳥取・因幡圏域	キャッチコピーはなし（５つの将来像、安心、環境、交流、魅力、活力）
青森）八戸圏域	人・産業が元気で活力・魅力を創造・発信する北東北の中核都市圏
埼玉）秩父圏域	希望に満ちた未来の「ちちぶ」のために
岐阜）美濃加茂圏域	ここに住むしあわせ。　ＨＯＴ（ホット）エリアみのかも。
岡山）東備西播圏域（備前市）	自然と歴史につつまれた、笑顔あふれる文化交流都市圏
香川）瀬戸・高松圏域	島、街、里が織りなす　重層的なネットワークに支えられた　創造性豊かな中核・生活交流圏域
福岡）久留米広域	明日の豊かさと安らぎを育む久留米広域定住自立圏の創造
大分）九州周防灘地域（中津市）	暮らしの元気があふれる地方圏域
宮崎）日向圏域	「森・川・海の環」、「人の和」、「産業の輪」で繋がる交流都市圏
宮崎）都城圏域	集約とネットワークで築く県境を越えた南九州の広域都市圏

※滋賀）湖東圏域（彦根市）、高知）幡多圏域（四万十市・宿毛市）、他多数・・・キャッチコピーはなし

（資料４）

定住自立圏構想の推進に必要な手続きについて

：　初回策定の流れ

：　変更手続きの流れ

１　中心市宣言書の公表
（定住自立圏構想推進要綱第４）

（実施主体）
中心市＝**倉吉市**

（記載内容）
周辺市町村を含めた地域全体のマネジメント等において、中心的な役割を担うとともに、当該市町村の住民に対して積極的に各種サービスを提供していく意思等

２　定住自立圏形成協定の締結
（定住自立圏構想推進要綱第５）

（実施主体）
中心市＝**倉吉市**と周辺市町村＝**中部４町**（１対１）

（記載内容）
① 市町村の名称
② 目的と基本方針
③ 連携する具体的事項
④ ③の執行等に係る基本的事項
⑤ 定住自立圏形成協定の期間及び廃止の手続き

市町間で協議
（合意形成）

変更

３　定住自立圏共生ビジョンの策定
（定住自立圏構想推進要綱第６）

（実施主体）
中心市＝**倉吉市**

（記載内容）
① 定住自立圏及び市町村の名称
② 定住自立圏の将来像
③ 定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組
④ 定住自立圏共生ビジョンの期間

懇談会で検討
された課題

４　具体的な取組の実施
（定住自立圏構想推進要綱第９）

（実施主体）
中心市＝**倉吉市**と周辺市町村＝**中部４町**

（支援内容）
総務省は、中心市及び周辺市町村が締結、策定又は変更した定住自立圏形成協定及び定住自立圏共生ビジョンに基づく当該市町村の取組に対して、必要な支援を行う。

中部圏域の定住自立圏形成協定について

○協定の目的（概要）

目的

この協定は、甲（倉吉市）と乙（三朝町、湯梨浜町、琴浦町及び北栄町）との間において、甲及び乙が相互に役割を分担し、連携して、定住に必要な都市機能及び生活機能を確保するとともに、それぞれが保有する自然環境、農産物、歴史等の地域資源を有機的に連携し、有効に活用して、圏域全体の魅力を向上し、圏域の活性化を図ることにより、**圏域における定住を促進**し、**持続可能な社会を構築**するため、**定住自立圏を形成する**ことに関して必要な事項を定めることを目的とする。

○協定に基づき連携する取組の分野及び内容（概要）

(1) 生活機能の強化に係る政策分野

ア　福祉

①認知症に係る支援体制の整備

（認知症の診断システムの構築　等）

②子育て支援体制の整備及び充実

（病児保育等の特別保育の実施　等）

イ　教育

③鳥取中部子ども支援センターの維持及び教育相談体制の充実

（不登校児童等に対する相談体制の整備）

④体育施設の機能の維持及び強化

（倉吉市営陸上競技場の改修　等）

ウ　産業振興

⑤広域観光体制の充実及び強化による広域観光の推進

（梨の花温泉郷に対する支援の充実　等）

⑥企業誘致の推進

（関西事務所の連携　等）

(2) 結びつきやネットワークの強化に係る政策分野

ア　地域公共交通

⑦公共交通に係る効率的な運行体系の確立

（地域公共交通総合連携計画の策定）

イ　地域の生産者や消費者等の連携による地産地消

⑧地産地消の推進

（地産地消の関係者同士のネットワークの構築　等）

ウ　地域内外の住民との交流・移住促進

⑨空き屋バンクの連携等による移住の促進

（移住施策の連携　等）

エ　その他結びつきやネットワークの強化に係る連携

⑩広報活動の連携による広域的な情報提供

（CATV番組の相互放送等の働きかけ　等）

(3) 圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野

ア　人材の育成

⑪合同研修会の開催

イ　外部からの人材の確保

⑫専門人材の確保及び活用

ウ　圏域内市町の職員等の交流

⑬人事交流の実施

※⑪～⑬は、左記の①～⑩までの取組に必要なマネジメント能力の強化のために行う。

※周辺市町村により、協定内容は異なることに留意

※参照：参考資料1　定住自立圏形成協定書